

【ユニット】 臨床入門

【ユニットディレクター】

UD：石橋 敬一郎（医学教育学）

UD 補佐：森 茂久（医学教育学） 山田 泰子（医学教育センター） 柴崎 智美（医学教育学）

川村 勇樹（教養教育） 荒木 隆一郎（医学教育センター） 米岡 裕美（教養教育）

杉山 智江（医学教育センター） 大西 京子（医学教育センター） 佐藤 義文（医学教育センター） 金田 光平（医学教育センター） 杉浦 由佳（医学教育センター） 齋藤 恵（医学教育センター）

小池 啓子（医学教育センター） 鈴木 正（教養教育） 佐藤 寛栄（医学教育センター） 黒崎 亮（医学教育学） 佐藤 真塩（医学教育センター）

【一般的な目標】

医学を学び、その成果をすぐれた医療人（臨床医）として実践できるようになるために、医学を学習することへの関心を高めるとともに、医学生として備えておくべき基本的な臨床技能及び態度を修得する。なお、本科目の一部は、全学共通データサイエンスAI学修プログラム（応用基礎レベル）になっている。応用基礎レベルは、データやAIを活用して自身の課題解決につなげる基礎能力を修得すること、将来の医療にAI等の情報通信技術を応用するための大局的な視点を獲得することを目的としている。

【具体的な目標】

1. バイタルサインの測定方法を再確認し、より確実により迅速に測定できるように技能を高めて臨床の場で通用するレベルを身につける。
2. 臨床現場で必要とされるコミュニケーション能力を高めるために、コミュニケーションの基本を想起し、医療面接で重要とされる傾聴と共感的態度を中心に学習する。
3. 一次救命処置(BLS)の復習を行い、BLSが必要とされる状況に直面した際のチームダイナミクスを意識した対応を学習する。
4. 臨床現場において、集団に情報や思いを伝えるプレゼンテーションに関する基本的な知識や技法を修得する。
5. 重症心身障害児（者）施設での多職種協働（IPW：Interprofessional Work）を模擬的に体験し、保健・医療・福祉専門職の役割を理解し、連携に必要な視点を説明できる。
6. 体験学習（early exposure）の一貫として、医師業務見学実習を通し、早期より病棟、外来での診療の雰囲気を経験し、今後医学を学習する意欲をさらに高める。
7. 自己の体験を振り返り、ヒューマンケアの担い手としてひとをケアすることについて理解して、今後の自己の行動について説明できる。
8. 新しい情報・科学技術、特に生成AIを医療に活用できるようになるために、AIの仕組みと留意事項を理解し、自信の学習に生成AIを適切かつ効果的に活用できる。

【学習方法】

臨床入門2 実習1：（春の部）

6グループに分かれ、6日間でコミュニケーション（医療面接の基礎）、プレゼンテーション技法、光の家療育センターにおけるIPWの体験（多職種協働実習）、バイタルサイン測定（血圧・脈拍の測定など）、一次救命処置(BLS)、生成AIなどの各実習を行う。

実習で得られた情報について小グループで討論と実習を行った上で、さらに全体会で発表と討論を行う。

臨床入門2 実習2：（医師業務見学）

1-3 名が1組で、大学病院、総合医療センター、国際医療センターのいずれかの病院の診療科で医師業務見学実習を行なう。実習内容には医師による病棟診療、外来診療、検査、病棟回診などの業務見学、CC step1 中の5年生の実習および研修医の研修の見学、および医療チームの各専門職の存在を知ることが含まれる。

実習前に見学先の医師が所属している基本学科について調査し、予備知識を持って実習に臨む。質問等は、実習時間内に受け付ける。

【評価方法】

本ユニットは良医になることを目指して、講義や実習に参加し、課題に取り組むことを求めている。そのため、医師を目指す医学生としてふさわしくない態度、行動があった場合には、評価の対象とせず不合格とする。また、本ユニットは、臨床実習の導入として位置づけられているため、原則すべての実習に参加することを評価の要件とする。

1. 【本ユニットは実習扱いであり、90%以上の出席が必要である。】

出席90%以上の者を評価対象とし、出席90%に達しないものは評価対象としない。欠席する場合には事前連絡と欠席届の提出が必須である。実習を欠席した場合には、1回のみ補講を行う。補講を含めて90%以上の出席がない場合は、やむを得ない理由であっても評価の対象としない。12月末または学年末(2月-3月)に補講を実施する。

なお、集合して実施するオリエンテーション等は時間を厳守することを求める。遅刻した場合には、評価に反映する。

実習オリエンテーションを欠席した場合には、実習前日までにオリエンテーションの動画を視聴する、実習要項を熟読するなど、教員からの指示に必ず対応すること。対応しない場合には、実習への参加は認めない。

2. 11月以降の実習はインフルエンザワクチンを接種していることが、実習参加の条件である。
3. 本ユニットでは全ての課題(提出物)の提出を求める。具体的には、学務課や実習担当者に提出するレポート、実習成果物等だけでなく、WebClassに登録する日々の振り返り(ログブック)、ルーブリック評価、レポート、ポストアンケート、健康チェック観察シートを含むすべての課題である。それぞれの課題毎に決められた提出期限内に未提出の場合には、催促は行わず未提出として扱い、評価点から減点する。指定された方法、内容と異なるものやレポート剽窃等アンプロフェッショナルな行動があった場合には出席・提出物を0点とする。
4. 評価は、出席、実習態度、小テスト、レポートを総合して100点満点で評価する。マイルストーン評価はレポート課題として評価する。合格に達しない場合には、補習後再評価を行う。

【教科書】

- ◆ 医療面接技法とコミュニケーションのとり方 新基礎臨床技能シリーズ1, 福島 統, メジカルビュー社
- ◆ 診療録の記載とプレゼンテーションのコツ 新基礎臨床技能シリーズ, 酒巻哲夫, 阿部好文, メジカルビュー社
- ◆ 診療ができる vol.1 身体診察(第1版), メディックメディア社

【参考書】

- ◆ 模擬患者とつくる医療面接, 寺沢秀一, 林 寛之, 氏家靖浩, ナカニシヤ出版
- ◆ 戦略としても医療面接術, 児玉知之, 医学書院

【授業予定表】

ICM : Introduction to Clinical Medicine

	月日	曜日	時限	講義名	担当者
ICM1	05月26日	(火)	4~6	臨床入門2 実習1 オリエンテーション	UD, UD補佐, その他
ICM02 実習1-1	06月02日	(火)	1~3	・コミュニケーション ・プレゼンテーション技法 ・光の家でのIPW体験 ・バイタルサイン ・一次救命処置 (BLS) ・生成AI	UD, UD補佐, その他
ICM03 実習1-1	06月02日	(火)	4~6	・コミュニケーション ・プレゼンテーション技法 ・光の家でのIPW体験 ・バイタルサイン ・一次救命処置 (BLS) ・生成AI	UD, UD補佐, その他
ICM04 実習1-2	06月03日	(水)	1~3	・コミュニケーション ・プレゼンテーション技法 ・光の家でのIPW体験 ・バイタルサイン ・一次救命処置 (BLS) ・生成AI	UD, UD補佐, その他
ICM05 実習1-2	06月03日	(水)	4~6	・コミュニケーション ・プレゼンテーション技法 ・光の家でのIPW体験 ・バイタルサイン ・一次救命処置 (BLS) ・生成AI	UD, UD補佐, その他
ICM06 実習1-3	06月04日	(木)	1~3	・コミュニケーション ・プレゼンテーション技法 ・光の家でのIPW体験 ・バイタルサイン ・一次救命処置 (BLS) ・生成AI	UD, UD補佐, その他
ICM07 実習1-3	06月04日	(木)	4~6	・コミュニケーション ・プレゼンテーション技法 ・光の家でのIPW体験 ・バイタルサイン ・一次救命処置 (BLS) ・生成AI	UD, UD補佐, その他
ICM08 実習1-4	06月09日	(火)	1~3	・コミュニケーション ・プレゼンテーション技法 ・光の家でのIPW体験 ・バイタルサイン ・一次救命処置 (BLS) ・生成AI	UD, UD補佐, その他
ICM09 実習1-4	06月09日	(火)	4~6	・コミュニケーション ・プレゼンテーション技法 ・光の家でのIPW体験 ・バイタルサイン ・一次救命処置 (BLS) ・生成AI	UD, UD補佐, その他

	月日	曜日	時限	講義名	担当者
ICM10 実習1-5	06月10日	(水)	1~3	・コミュニケーション ・プレゼンテーション技法 ・光の家でのIPW体験 ・バイタルサイン ・一次救命処置 (BLS) ・生成AI	UD, UD補佐, その他
ICM11 実習1-5	06月10日	(水)	4~6	・コミュニケーション ・プレゼンテーション技法 ・光の家でのIPW体験 ・バイタルサイン ・一次救命処置 (BLS) ・生成AI	UD, UD補佐, その他
ICM12 実習1-6	06月11日	(木)	1~3	・コミュニケーション ・プレゼンテーション技法 ・光の家でのIPW体験 ・バイタルサイン ・一次救命処置 (BLS) ・生成AI	UD, UD補佐, その他
ICM13 実習1-6	06月11日	(木)	4~6	・コミュニケーション ・プレゼンテーション技法 ・光の家でのIPW体験 ・バイタルサイン ・一次救命処置 (BLS) ・生成AI	UD, UD補佐, その他
ICM14 実習1-7	06月12日	(金)	1~3	臨床入門2 実習1 まとめ (全体発表とディスカッション)	UD, UD補佐, その他
ICM15 実習1-7	06月12日	(金)	4~6	臨床入門2 実習1 まとめ (スモールグループディスカッション)	UD, UD補佐, その他
ICM16	11月18日	(水)	4	臨床入門2 実習2 オリエンテーション	UD, UD補佐, その他
ICM17	11月25日	(水)	1~2	臨床入門2 実習2 オリエンテーション	UD, UD補佐, その他
ICM18 実習2	12月02日	(水)	1~6	臨床入門2 実習2 医師業務見学実習 大学病院, 総合医療センター, 国際医療センターの3病院で実施	UD, UD補佐, その他
ICM19	12月03日	(木)	1~3	臨床入門2 実習2 まとめ	UD, UD補佐, その他

【令和4年度モデルコアカリキュラム対応】

PR-01-01-01 患者や社会に対して誠実である行動とはどのようなものかを考え、そのように行動する(利益相反等)。

PR-01-01-02 社会から信頼される専門職集団の一員であるためにはどのように行動すべきかを考え、行動する。

PR-01-02-01 自分自身の限界を適切に認識し行動する。

PR-01-02-02 他者からのフィードバックを適切に受け入れる。

PR-02-01-01 患者を含めた他者に思いやりをもって接する。

PR-02-01-02 他者に思いやりをもって接することができない場合の原因・背景を考える。

PR-02-02-01 自身の想像力の限界を認識した上で、他者を理解することに努める。

PR-02-02-02 他者を適切に理解するための妨げとなる自分や自集団の偏見とはどのようなものかを考え、

意識して行動する。

PR-02-03-01 医師に求められる品格とはどのようなものかを考え、それを備えるように努める。

PR-02-03-02 礼儀正しく振る舞う。

PR-03-01-01 人の生命に深く関わる医師に相応しい教養を身につける。

PR-03-01-02 答えのない問いについて考え続ける。

GE-01-01-04 主訴に応じて、必要な医療面接・身体診察・検査を実施できる。

CS-01-02-03 バイタルサイン(体温、脈拍、血圧、呼吸数、酸素飽和度)の測定ができる。

CS-03-03-02 一次救命処置を実施できる。

CM-01-01-01 言語的コミュニケーション技能を發揮して、良好な人間関係を築くことができる。

CM-01-01-02 非言語的コミュニケーション(身だしなみ、視線、表情、ジェスチャー等)を意識できる。

CM-01-01-03 患者や家族に敬意を持った言葉遣いや態度で接することができる。

CM-01-01-04 対人関係に関わる心理的要因(陽性感情・陰性感情等)を認識しながらコミュニケーションをとることができる。

CM-01-01-05 相手の話を聞き、事実や自分の意見を相手にわかるように述べることができる。

「UD, UD 補佐, その他」と記載してある時間は、以下の者が担当している。

石橋(医学教育学)、森(医学教育学)、山田(医学教育C)、柴崎(医学教育学)、森口(教養教育)、川村(教養教育)、荒木(医学教育C)、米岡(教養教育)、杉山(医学教育C)、金田(医学教育C)、大西(医学教育C)、佐藤(義)(医学教育C)、藤森(教養教育)、中平(教養教育)、種田(教養教育)、村上(教養教育)、伊澤(教養教育)、佐藤(寛)(医学教育C)、林(教養教育)、高橋(総セ放射線腫瘍科)、吉益(総セメンタルクリニック)、岡田(総セ泌尿器科)、黒崎(医学教育学)、杉浦(医学教育C)、佐藤真(医学教育C)、鈴木(教養教育)その他